



キャプチャー画像：

No.59

節分など

昭和42年2月3日ほか

世田谷山観音寺、自宅周辺（野沢）、子どもの国

撮影は提供者の父。ランドセルをもらうシーンあり。  
「入り口」と小さな札がみえるのは、銭湯。  
当時、家族でよく行っていた。世田谷観音の節分。豆まき。  
砂糖、醤油と引き換えることができる仕組み。雪で遊ぶ。  
雪だるまの目鼻は炭（たどん）。子どもの国でスケート。  
昼食に麺類を食べる。電車で帰る。

## かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2020 no.2 <コロナ禍・特別篇>

参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。このたびのコロナ禍の状況を受けて、会員の皆さまが各自のお住まいから非対面的に参加できる《ハガキ方式》での遠隔実施を試験的にはじめました。

その試みの2回目となる今回、各自の環境でご覧いただいた映像は『no.59 節分など』（昭和42年2月3日ほか）でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2020 no.2 <コロナ禍・特別篇>  
発行日：2021年3月31日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net  
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな）  
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房  
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー  
<http://www.setagaya-ldc.net/>  
企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]  
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

穴アーカイブ:an-archive

せたがやアカカブの会 vol.24 <ハガキ方式>

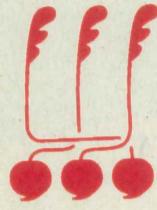
開催方法：アカカブの会々員に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました

募集期間：2021年1月12日-2月12日

回答数：3名

世田谷文化生活情報センター  
生活工房宛  
【差出人】  
（ご住所）  
（ご氏名）

▲映像にまつわる下記3点を眞面目にご記入ください。  
(あ) 当時の年齢とお住まい  
(い) 聴っているもの、思い出したこと、疑問や感想など  
(う) 現在の年齢とお住まい  
＊裏面にはご氏名を書かないでください。



せたがやアカカブの会 : The setagaya akakawa circle  
穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたは<お問い合わせ>からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。

POST-MOVIE

(a) 32歳 世田谷正代田

(い) 子供さんの服装ウールのオーバーであろう今までタウンコートである。  
雪だるまの鼻・口・炭であろう當時は暖玉と3つに火鉢ややぐらなど炭が使われていた現在は炭も手近になく、保健の炉で使っている。  
三重県桑名市で私が育った頃、戦争 戦後で物がなく長靴もなかなか、大雪の日高下駄で学校へ行った。下駄のほの間に雪がはさまって更に高くなりころげ落ちてあえぎあえぎ登校した思い出がある。  
東京に来て子供等が小学生の頃、4月桜といっぽんに雪が降ったことがあった。  
映像の子供さん新1年生でうれしそう、當時はまだ通学路の車も少なかったようだ。  
周囲の家、マンションもなく木造である側(面)の板の家が多かった、この頃はモルタルである。  
節分の豆まき、今年は新型コロナウイルスの影響でお寺などでも中止が多く、さみしい年になつた。一日も早く終息し来年には大勢元氣に豆まきが出来ればと思う。

(う) 56歳 世田谷正代田



世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

世田谷文化生活情報センター

**生活工房**

Lifestyle Design Center



穴アーカイブ : an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(穴)から捉え直す反(an)アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30~50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、暮らしに光をあてる。2015年から始動。

POST-MOVIE

## 節分の不思議

節分の時姉弟5人で豆まきをしました。秋に取れました。大豆田がかまどいって自分の年の数だけひろい樂しかました。節分の豆負いになりますと木想いでされます。いろが音の事になります。千葉県外島が古里ですが今もアパートで隣に隣って暮らすとあります。屋根木良かわういかごをのせてます。節分の行事にはなってました。高齢の方も亡くなったり今は現在うやうやしくました。私が少しお豆の木想い出に残ります。世田谷区もえゆうイエイ!節分がひらかれています私も太洋堂の内食店で豆負いが5人、区の議員町会の豆負の方全方が来る豆まきをしてたくさんの人々が来ました。今年はコロナウイルスで中止になりましたが少し寂しいですね。来年ひらかれます事無しにします。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(a) 中学生(14歳頃)、群馬・高崎市

(い) 国道川ハヤバスジ沿いに蒲鉾屋根の屋内スケート場が開設され、学年全体で訪れ、一日体験授業のようなものが行われた。私は初めてリンクに立ち、滑り始めたが、止まり方を知らないので、壁に当たって止まるはかなかった。他の生徒がエンジの長い靴でスピードを出して滑っていたり、男の先生がアドリアの靴で軽やかに滑っているのを見て、羨しく思った。

(う) 67歳、世田谷区

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83